

# 培

## 実証

「原子力発電  
露地で栽培で  
つながる品目  
について」JA

協力する。  
の栽培を実証す

るため、飯館村飯樋で水稲と葉タバコを生産していた高野吉正さん(64)、良子さん(58)夫妻に協力を依頼した。

高野さん夫妻は原発事

要の開花が想定できる3品種を選び、合計3000本を3ヶ月に植えた。

吉正さんは「実証栽培が成功したら、来年から飯館村で小菊栽培を頑張

りたいと思う。戻るのが楽しみ」と期待する。

JAは実証結果を8月にまとめる。収量や品質、収入などを確認した上で普及に移す方針だ。

### 京都府 農福連携センター設立 障害者就労後押し

京都府は、府内に「きょうと農福連携センター」を設立した。農業関係の障害者就労支援事業の障害者就労支援事業

00万円で、府は「農福連携でこれほどの規模は全国的に珍しい」という。具体的には、生産・加工に必要な設備や農業用倉庫改修などに1件当たり500万円を助成。製品開発や地域交流事業の開発費などに対しては一律

### 納屋改装、加工所に 規格外品イチゴ活用

福岡県みやま市・安達さん



イチゴを加工調理する安達さん(福岡県みやま市)

さんは加工所を立ち上げた。将来的には周辺の農家から加工向けを受け入れたり、加工所を貸し出せば――。

3月に完成した加工所は広さ36

### 機材は「プロ仕様」 「地域で共有」が夢

開拓まで学んだ。第一弾の商品として作ったのは「ドライあまおう」。「あまおう」の甘味と酸味がぎゅっと詰まり、風味は生果に劣らない。低温で12時間乾燥させるため、パリッとした食感が楽しめる。現在は料理研究家と連携し、焼き菓子の材料として業務販売している。

安達さんが目指すのは、農家同士のコラボレーションと加工所と作業員を共有する「ワークシェア」。最盛期が異なるアスパラガス農家と連携できれば、どちらかが収穫に専念する間、片方が加工を受けられることができる。安達さんはJAと連携して女性部が規格外品も買い取る。季節のフルーツを周年で加工できればロスも減り、収入になる。そんな未来を描く。

300万円を補助する。障害者の農業習熟度を認証する制度を導入し、円滑な就労や意欲向上につなげる。技術指導は農業改良普及センターが対応する他、専門家を派遣し6次産業化も後押しする。子ども食堂や認知症カフェなども連携し、地域コミュニティの低下も防ぐ。

府の調べでは現在、府内に障害者就労支援事業所が378カ所あり、このうち、農業関連は53カ所ある。年度内に約20カ所の同事業所を再整備する予定。

### 一気に丸太を割って、薪に!

非常に硬い鋼鉄で作られており、少し打ち込むだけで亀裂が入り手強い丸太もバツサリ!面倒だった新割りの効率を大幅にアップします。

効果的な打撃を可能にする球状に盛り上がった中心のヘッド部

### 人工頭脳ロボットで遊ぶ!

二足歩行で前進後退、旋回します。左右の腕を上キック物をつかむ、投げる、擦撥、叩く、バシッ、ググッの仕以上のパターンで自在に動きます。

ド迫力の精密メカ

サウンド機能搭載

コントローラー